

# ラボの世界

## THE WORLD OF LABO

- 01 10代とともに ~やりたいことをみんなの喜びに
- 04 ラボ国際交流 World Map
- 05 地平線白書 2025-2026 冬のラボ国際交流
  - ・ニュージーランド青少年受入れ
  - ・夏の受入れ家庭募集
- 07 ラボ・インターン活躍中!
- 09 LABO 中国青年交流団即将出発!
- 10 東京言語研究所 教師のためのことばセミナー  
~今後の「教師のためのことばワークショップ/セミナー」について  
募集案内
- II Go Ahead! ~東京都・杉山絵里香氏  
Information



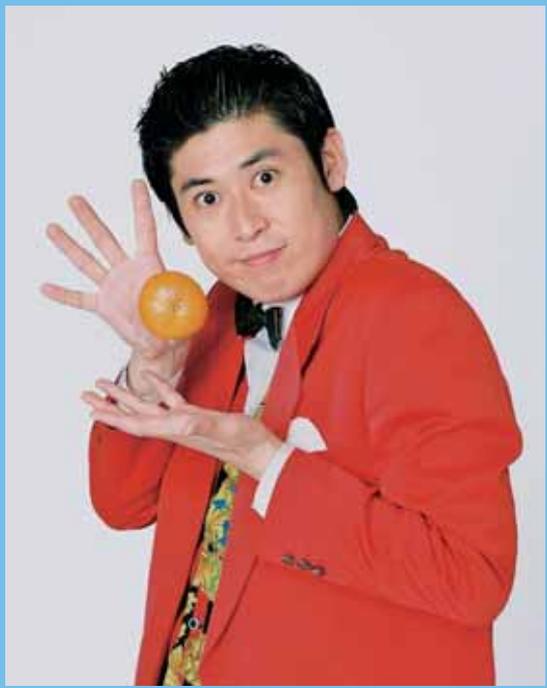
冬のホームステイ受入れプログラムでは、ニュージーランドから12名が来日。くろひめウインターキャンプでは、野外活動プログラムで雪の黒姫山登山に挑戦したメンバーもいました。

## 10代とともに

# マギー審司

Maggy Shinji

高校卒業後、単身アメリカに渡り、1年間プロのマジシャンのもとで修行。帰国後、1994年にマギー司郎に弟子入りし、「マギー審司」としての活動がスタート。2005年には第21回浅草芸能大賞新人賞受賞。師匠譲りの喋りとおとぼけマジックでライブ、テレビ、ラジオ、CMなどで活躍中。「みやぎ絆大使」や、地元で「みなと気仙沼大使」など、地域活動にも貢献。



## やりたいことを みんなの喜びに

ぼくは、目立ちたがりな子どもでした。勉強ができたり、かけっこが速かったり、歌がうまかったりすればクラスの人気者になって目立つことができたのでしょうか、どれもそこまで得意ではありませんでした。それでもあきらめきれなくて、「だれもやっていないことをやってみよう」と決めました。「あの人は自分よりも勉強ができてうらやましいなあ」と思うよりも、その人にできないことを見つけてやってみようと思ったんです。

だれもやっていないことを探しているうちに、手品にたどり着いたのだと思います。ぼくが生まれた宮城県の気仙沼というところには、当時、手品をやる人はいませんでした。ほかのことではあまり自分に自信がもてなかったぼくも、手品を練習したおかげで自信をもつことができました。気仙沼の子どものなかではいちばん手品がうまいと思うことができたからです。

### ことばと手品

手品は好きでしたが、将来は家業の電気屋を継ぐつもりでした。けれども高校を卒業したときに、「一度は海のむこうから日本を見てみれば」と親にすすめられ、アメリカの寿司屋で1年間働くことにしました。このことが、ぼくの人生を大きく変えることになりました。

マジックとトークで全国各地を笑顔にしているマギー審司さん。親しみやすい雰囲気でも笑いも交えながら、夢のことや、自分に自信をもって生きるためにどうすれば良いかなど、たくさんのことばをいただきました。マジックも披露してくださり、会場は驚きの声があがりました。

日本の寿司屋では、長い修業期間を経たようやく寿司をにぎらせてもらえるのだと思いますが、アメリカではすぐに客前で寿司をにぎることになりました。店のカウンターには数人の寿司職人が並んでいるのですが、英語を話すことのできないぼくの前に座ったお客さんは、つまらなそうな顔してお寿司を食べていました。そしてほかのテーブルに移動してしまいます。

どうにかお客さんに楽しんでもらおうと、手品を披露してみることにしました。ほかの人であれば「ほかの寿司職人に負けないように英語をがんばろう」という発想になるのかもしれませんが、ぼくの場合は「だれもやっていないことをしよう」と考えるからです。

手品を披露すると、家族連れのお客さんがとても喜んでくれたんです。そして、その家族はかならずぼくの前に座ってくれるようになりました。そうするとぼくも嬉しくなって、次にそのお客さんが来てくれたときのために新しい手品を練習して、披露して、また喜んでもらうために新しい手品を練習して……というふうに、手品の技術をみがいていきました。

そんなある日、ぼくの手品にあまり喜ばないお客さんに会います。聞くと、その人はプロのマジシャンだったのです。そのマジシャンがポケットから10ドル札を取りだす

と、あっというまに100ドル札に変わりました。その100ドル札をくしゃくしゃに丸めたと思ったら、ぼくの目の前でそのお札が宙に浮いたんです。逆にぼくが驚いてしまい、すぐに「それ教えてください!」と頼み、そのマジシャンに手品を教わることになりました。

そこから、仕事が休みの日はその人といっしょに過ごしました。そのマジシャンは、ビリヤードに行けば球を消しますし、カフェに行けばフォークを曲げます。ほんとうに楽しい日々でした。さまざまな手品を教えてもらい、手品がとても上達しました。そのことで、自信をつけて帰国することができました。

帰国して、プロマジシャンになろうと思ったときに、以前からテレビで見えてあこがれていたマギー司郎さんに手紙を書いてみることにしました。そして、運良く弟子になることができました。プロマジシャンになるためにものすごく努力をしたというよりも、好きな



# 10代とともに



ことをずっと続けていたら、いつのまにか夢が叶っていたという感じですね。

## 背中をおしてもらえる人に

みなさんにも、将来の夢はありますか？夢について考えるときに、ぼくからひとつだけ言いたいことは「相談する相手を間違えないでほしい」ということです。たとえば、「プロ野球選手になりたい」ということを自分の両親に相談しても、両親がプロ野球選手じゃない限り、プロ野球選手のことはわからないと思います。わからないから、「それは無理なんじゃない？」と否定されてしまうかもしれません。ぼくがもし気仙沼で「マジシャンになりたい」とだれかに相談していたら、無理だと笑われていたかもしれません。

でもぼくはマギー司郎というプロマジシャンに手紙を書いたから、「マジシャンになれるよ」と背中をおしてもらうことができたんです。ですので、たとえば美容師になりたいのであれば、美容師ではないまわりの友だちに相談するのではなく、ちょっとお金はかかるかもしれないけれど有名な美容院を予約して、髪を切ってもらいながら相談してみると良いと思いますよ。とても良いアドバイスがもらえるはずですよ。



## まずやってみる

やってみて失敗することもたくさんありましたが、やらないで後悔するよりは良いと思っています。

子どものころから大好きだった志村けんさんの誕生日会に一度招かれたときに、手品を披露したら喜んでくださいました。そこで電

話番号を交換させていただきました。いつでも連絡して良いと言ってもらえたのですが、憧れの人に連絡するのはとても勇気のいることですよね。でも、ぼくは連絡してみました。またお会いしてみたかったですし、話をたくさん聞きたかった。「これからお会いすることはできますか？」と聞いてみたら、会ってくださり、そのときから頻繁に志村さんに呼んでいただけるようになりました。そして、志村さんの番組にいくつも出演させていただくまでになりました。思い返すと、あのとき緊張しながらも、思いきって志村さんに連絡をした行動力が、そのあとの経験につながったのだと思います。行動したあのかの自分に感謝しています。

## 芸はすなおに

ふり返ってみると、芸能界でやってきた道のりは良い思い出ばかりでした。でも、師匠にきつく怒られてしまったこともあります。

ぼくはメディアの取材で、「師匠は手品がへたなので、何も教わっていませんよ。ぼくが師匠に教えているくらいなんです」と冗談を言うことがあります。これは師匠の、おしゃべりのおもしろいマジックを尊敬しているからこそその冗談なのですが、とある雑誌に「マギー司郎からは何も教わっていない」という記事が掲載されてしまいました。

それを見た師匠はお怒りになり、喫茶店に呼びだされて、説教されました。ぼくとしては、記者の方にそんな言い方はしていないのですが、師弟関係においては弟子からの言い訳はできません。「すみません、すみません」とひたすら頭を下げました。

そのときにぼくが頭のなかで考えるのは、「どうしてこんなことになってしまったのだろう？」ということ。「自分はちっとも悪くない」と開き直るのはかんたんですが、自分の良くなかったことを考えるほうが次につながるとしています。自分の言い方が、記者

の方に冗談として伝わりにくかったのかもしれないし、もしかすると記者の方がぼくに對して嫌な感情があって、わざと辛辣な記事にしたのかもしれない。嫌われるような、生意気な態度をとってしまっていたのかもしれない。もしもほんとうにぼくのことを好きになってくれていたら、あのような記事にはなかったのではないか……。悪いのは自分だと思うことによって、師匠にも心から謝れるのだと思います。

師匠はよく「芸はすなおに」と言うんです。芸の道で、才能が伸びる人は決まってすなおです。すなおであるかどうかはとても重要です。もしも師匠が、「そこの黒いティッシュを取ってくれ」と言ったら、たとえそれがどう見ても白いティッシュであっても、ぼくらの世界ではそれは黒いティッシュです。「はい」と返事をして、そのティッシュを渡します。

師匠も、それが白いティッシュだということとはわかっていますが、そのティッシュを「いや、これは白いティッシュです」という人は、自分の考えが正しいと信じきっているので、芸を教える、「いや、自分の考え方のほうがあっているな」と思ってすなおに受け入れず、伸びないということのようです。人は、すなおな人に教えたくなるし、すなおな人ほど愛されるということなのだと思います。とてもだいじなことを師匠に教えていただきました。人に怒られているときでも、す



なおに受け止めれば、自分でプラスに変換することができます。

今、ぼくの話聞いてくれるみなさんも、「でも、

## 10代とともに

それはちがいますよ」と言わずに、うなずきながらすなおに聞いてくれていますよね。だからぼくはどんどん話を続けたいんです。人のことをすなおに受け入れれば、自分の成長にもなるし、まわりの人からの信頼も得ることができます。

### 自分の逃げ道

ここにいるみなさんは、SNSをやっていますか？ SNSをのぞくと、ほかの人のやっていることが輝いて見えて、自分と比較して

しまつて落ち込むことがあると思います。そんなときには、ぜひ、逃げ道をつくってみてください。

ぼくは、自分よりおもしろいお笑い芸人の方と仕事をすると、とても自分ではかなわないと思います。そして、自分より手品のうまいマジシャンもいくらでもいます。でも、どんなにおもしろいお笑い芸人さんでも、ぼくのほうが手品はうまいと思うと自信がもてます。そして、手品のうまいマジシャンでも、ぼくのほうがおしゃべりはおもしろいと思う



ようにしています。そうやって逃げ道をつくることで、自信をもっているいろいろな人と仕事をすることができますし、「この芸人さんおもしろいな」とすなおに実力を認めて尊敬することもできるようになります。

みなさんも、人と比べてつらくなったときには、そんなふうに関心の逃げ道をつくってみてください。逃げるということばは、悪いことばではないんですよ。

じつはぼく、ボウリングが得意なんです。芸能界でゴルフやダーツが得意な人はたくさんいます。でも、ボウリングがうまい人って、あまりいないということに気がついて、挑戦してみることにしました。一生懸命練習を続けていて、ある程度うまくなると、思ったとおり、仕事につながりました。一時期は、マジックの仕事よりも、ボウリングの仕事のほうが多くなったくらいです。だれでも何かのいちばんになれる。自分だけのいちばんをめざして、がんばってください。

(文責：編集部)



## インタビューを終えて

[取材協力]

東京都、埼玉県在住のラボ会員

### 高橋義子パーティ

●木鋤佳菜 (中2) マジシャンだけど、ボウリングを極めたりバンにはまるなど、ほんとうにいろいろなことに挑戦して、得意なことを増やしていったのがすごいと思いました。人生でいちばんたいせつなのは「すなおさだ」と言っていたので、自分もすなおになることを心がけようと思いました。●橋本 空 (中2) マジシャンとして成功した秘訣について、自分の夢を実現させる方法など、さまざまなことを教えていただきました。みんな何かしらいちばんになれるものを持っていると言っていたのが強く印象に残っています。それはそとでの遊びでもゲームでもなんでも良いとおっしゃっていました。これはマジシャンという、めざす人が多くはない道を買ってきた人のことばだからこそその説得力があるように感じました。●宮本夏響 (中2) マギー審司さんのお話を聞

き、人目を気にして挑戦しなかったら自分が殻にこもってしまい、何もできなくなってしまうと言っていて、挑戦することがたいせつなんだとあらためて理解することができました。もし失敗して後悔したとしても、やらずに後悔するよりやって後悔するほうが良いなと思いました。

### 中村ヒトミパーティ

●逸見栞志 (高1) 自分よりも上と感じてしまう人がいても、その人よりも優れている点を自分のなかに見つけ、良い意味で逃げ道をつくることもたいせつになること、何事においてもまず挑戦する行動力、知っていることを増やすことが、今後生きていく糧となってくれるものだなと感じた。●渡部翔大 (大学生年代) マギー審司さんのお話を聞いて自分の得意なことを伸ばし、それを認められることのたいせつさについて知れたので、まずは自分の得意なこと

を見つけることから始めてみたいと思います！

### 俣田麻理子パーティ

●林田乃々香 (大学生年代) 「すなおさ」がいちばんたいせつ」ということばは、マギー審司師匠の言うことが絶対だった下積み時代を通して、「言われたことを否定せず、すなおに受けとめる姿勢」が身についたとおっしゃっていました。人との関係性を築くうえでは、自分と考え方が違ったとしても、一度受け入れる姿勢はとてもたいせつだと思います。ラボっ子はパーティ活動やキャンプでの共同生活など幾度となく体験していて、すなおさを体現していると思います。マギーさんのお話で、多くのラボっ子が培ってきたすなおさが、いかに人生において大きな影響力があるかを再認識しました。

### 渡辺 忍パーティ

●山本詩歩 (中3) 「やったことがないことに挑戦してみる」ということばが心に残っていて、今まで失敗

が怖くて動けなかった自分を変えたいと思いました。自分の好きな道を選んできた話から、目標をもつことと行動することのたいせつさを学びました。最初から順調ではなかったとわかり、自分もたくさん挑戦しようという勇気ももらえました。今回の話を通して、これからは人と比べるのではなく、自分の目標に向かって進んでいきたいと思いました。

### 佐藤尚美パーティ

●越智 楓 (高1) 私は学校の部活動で部長をしていて、100人近くの部員とコミュニケーションをとっています。そのなかで、どうしても自分のやり方に否定的な意見を言われることもあります。ですが、マギー審司さんの考え方をすれば、自分に自信をもつことができます。なので、計画性が高いのはあの子、楽器の実力がすごいのはあの子と、部員を尊敬できるのです。この考え方にほんとうに感動したので、これから実践してみようと思います。

[取材日] 2026年2月11日

# ラボ国際交流

これまで私たちは、たくさんの国の人々と出会い、友情をはぐくんできました。これまで交流してきた国と地域を世界地図に載せてご紹介します。

# World Map

□…2026年も開催するプログラム

## イギリス

ラボ国際交流20周年を機にスタートしました。



## 韓国

中断していた時期もありますが、2001年から交流が再開しています。



## アメリカ・カナダ

1972年に「ラボ海外旅行」としてはじまった交流。オレゴン国際キャンプや、高校留学プログラムもおこなっています。



## 中国

日本交流史上初の民間人ホームステイを実施。2017年には、30年以上にわたるラボと中国との交流に対し、日本外務大臣賞を受賞。



## メキシコ

飛行機を2回乗り継ぎ、20時間かけてドゥランゴ州に到着。スペイン語を話す家庭でホームステイしました。



## オーストラリア

現地での学校生活のほか、3泊4日のキャンプ、市内見学など盛りだくさんの交流でした。



## マレーシア

神奈川県との交流プログラムに、ラボっ子を派遣しました。



## ハワイ

ハワイ4Hとの交流。ホームステイ中は、ハワイのことばも使って交流しました。



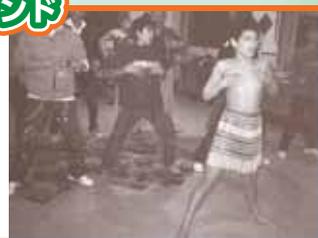
## インドネシア

インドネシアからきた高校生たちが、ラボ日本語研修所のプログラムに参加。週末には、ラボ会員宅でホームステイをしました。



## ニュージーランド

ホームステイをしながら現地の学校に通います。親子で参加できるプログラムもありました。



2025-2026

# 冬のラボ 国際交流

ニュージーランドから12名の青少年が来日した冬のホームステイ受け入れプログラム。受け入れ家庭で、パーティで、キャンプで、さまざまな交流がうまれました。来日者と受け入れ家庭、それぞれどのような体験をしたのかをご紹介します。

## ニュージーランド青少年受け入れ

日程 2025年12月12日～2026年1月5日

来日者 12名

### 対面式



### くろひめウインターキャンプ



### How was Labo Winter Camp?

- Everyone was very inclusive, and I made so many new friends, even though some spoke not a word of English.
- I would have loved more time outside, since we never experience snow like this in NZ. More English instructions would have helped us join in.
- My 2nd day activity was fun, and I enjoyed it!



### お別れ会





## Toma との思い出



**石塚友麻** 中1 (群馬県 西村敦子P) 来日者: **Toma** (15歳)

私が受入れをした理由は、日本以外のところに友だちをつくりたかったからです。また、受入れをしている人を見て、楽しそうだなと思ったからです。

いちばん心に残っているのは、ラボのみんなでいっしょにディズニーランドに行ったことです。Tomaはディズニーランドに行くのがはじめてで、たくさんのアトラクションに乗りました。Tomaはとくに期間限定のアトラクションが気に入ったそうです。私はTomaとたくさんコミュニケーションがとれたことがとても楽しく、良い思い出になりました。

この受入れを通して良かったと思うことは、人と人とが国を越えてつながれることです。今でもよくTomaと連絡を取りあっています。



### Toma's experience

We went to Mochitsuki (mochi making) as a family, and me and my host father sat near the fireplace and talked for such a long time! It was really fun, even though we struggled to understand each other so bad. For the homestay program, there are a lot of things to tell, I'll spend hours describing them!



### アンケートより抜粋

#### How was Your Homestay?

- I loved my host family. They were amazing and a perfect match for me. We got along great! I plan to host them if they come to NZ or visit them again in the future.
- My family was so curious about New Zealand! They asked a lot of questions and often brought up New Zealand before I could even open my mouth. It was very nice, and I enjoyed it a lot!
- My host family members are the best people ever! They welcomed me warmly, and I felt like a part of the family the evening they took me in. I want to keep in contact with them and visit again as soon as possible!
- In the end, my favourite thing was spending time with my host family. I thought I would cry because I missed Japan, but instead I cried when I said goodbye to my family!



#### How were Labo Activities?

- Singing and dancing isn't my thing, but I got to meet so many nice people through these fun activities. I just loved it as a whole!
- I'm shy, so it was a bit overwhelming to introduce myself to strangers, especially since they didn't speak English half the time.
- Theme activities were great, but I had to keep my arms up so much that they hurt!

#### What Surprised You About Japan?

- Showering together!
- How sniffing is okay in public, but blowing your nose is not!
- Vending machines with hot/cold drinks. It's so convenient!



## 2026ラボ国際交流 夏の受入れ家庭募集

### この夏、日本で、家族で、国際交流を体験しませんか？

- 北米日本語研修生 (首都圏のみ)  
期間: 6/12 ~ 7/10  
※幼児・小学生のラボ会員家庭も受入れ可
- 北米青少年  
期間: 7/10 ~ 8/6  
対象: 新中学1年生以上のラボ会員家庭
- ラングブリッジ日本語研修生 (首都圏のみ)  
期間: 7/11 ~ 8/2  
※幼児・小学生のラボ会員家庭も受入れ可
- 韓国青少年 (首都圏中心)  
期間: 8/3 ~ 8/13 (予定)  
対象: 新小学5年生以上のラボ会員家庭
- 中国 (北京) 青少年 (首都圏中心)  
期間: 7月下旬 (予定)  
対象: 新小学6年生以上のラボ会員家庭  
※詳細は「受入れ家庭募集要項」をご覧ください



# ラボ・インターン活躍中!

ラボ・インターンプログラムは、外国の青年が日本に1年間滞在するなかで、ラボ活動に参加しながら日本語学習や、日本の文化・風習などについて理解を深めることを目的としています。2025年秋から来日しているラボ・インターンのBrooklynとJoshuaのこれまでのようすをご紹介します。

2025年10月～2026年1月までは東京支部、千葉支部で活動しました



**Brooklyn Jackson**  
アメリカ・アイオワ州

ぼくは中部支部で活動したよ



**Joshua Sierra-Davidson**  
アメリカ・バージニア州

## ① ラボ・パーティ訪問

配属先ではラボ・パーティを訪問して、子どもたちと交流しています。



**Joshua**

1月末には3泊4日で静岡県のパーティを複数訪問しました



**Brooklyn**

事務所にいるときはパーティ訪問の打合せや自分のレポート準備などを行っています

## ② ラボ国際交流への対応

冬と夏の来日プログラム、高校留学の事前合宿など、ラボ国際交流に関わる行事の対応をします。



Brooklynは冬に来日したニュージーランド青少年の出迎えや対面式の対応をしました



### ③ ラボ・キャンプの対応

冬休みに開催された  
ラボ・ウインターキャンプでは、  
Brooklynはくろひめキャンプ1班、  
Joshuaはかなべキャンプに対応しました。



Brooklynはキャンプ中のニュージーランド  
青少年のケアや、ミーティングに対応



Joshuaは英語で生活をする  
「Kannabe Camp English Group」に対応



### ④ 研修

10月と2月にそれぞれ約1か月、  
日本語と日本文化の研修を受けます。



その日の授業で学んだことを  
ミニテストで確認中



日本文化体験として  
習字を体験中



夏の受入れプログラムにむけて、  
東京観光ツアーの計画を  
考える時間も

### ⑤ 今後は……

2026年3月～7月は、Brooklynはおもに関西支部、  
Joshuaは神奈川支部で活動します。

新しい地域でラボ・パーティを訪問したり、  
7月～8月には夏の受入れプログラムや  
ラボ・サマーキャンプの対応をしたりする予定です。  
いろいろな機会みなさんに会えるのを  
楽しみにしています!



# LABO中国青少年交流团即将出发!

ラボ中国青少年交流  
もうすぐ出発します!

2026年の中国青少年交流は3月25日～4月3日に開催されます。中国交流の特徴についてご紹介します。

## Q1 你在当地做什么?

交流中はどんなことをするの?



対面式やお別れ会などで、ラボや日本のことを紹介する機会もあります



近隣の観光地を訪問



お昼に学食を体験



日本語のクラスに参加



ホームステイ先で家族と過ごす

## Q2 中国交流有哪些独特的准备工作?

中国交流ならではの準備は?

絵本や本、もしくは教科書を1冊用意すること。交流が始まったころは、中国では日本の本や雑誌がなかなか手に入りませんでした。交流参加者が本を学校へ寄贈してきた歴史から、いまでも寄贈本として月壇中学にお渡ししています。



学校へ寄贈してきた本は「ラボ文庫コーナー」に集められている



## Q3 关于主办学校

交流先の学校について

### 北京市月壇中学

6年制の学校。1972年の日中国交正常化以降、最大規模の日本語学習に取り組んでいて、日本語教育や日本の学校・生徒との交流に力を入れています。

### 初中、但高中? 中学だけど高校!?

中国の中等教育は「初級中学校(日本でいう中学校)」と「高級中学校(日本でいう高校)」に分かれています。そのため中国の「中学校」は、日本でいう中学校と高校にあたります。

### 气候如何? 気候は?

交流時期の3月下旬～4月上旬は、日中はあたたかくても、朝晩はまだ冷えます。とくに北京は、朝晩は5度以下になる日もあります。



## 最重要的是…… いちばんたいせつなのは……

交流は自分たちだけではできません。相手がいることによって実現します。ホームステイ先や学校で、自分や日本を紹介できるように「自己紹介アルバム」を用意したり、「相手の人たちに自分はなにができるのだろう」と考えながら準備をしたり。北米交流、ニュージーランド交流、韓国交流、いずれの交流ともたいせつなことは変わりません。10日間の短期プログラムだからこそ、自分ができるところを精一杯準備しましょう。

※2026年は例年とは異なるプログラムを予定しています。現地でのようすは、「ラボの世界」夏号(6月4日発行)でご紹介します。



# 今後の「教師のためのことば ワークショップ／セミナー」 について



## 大津由紀雄

東京言語研究所顧問・第3代運営委員長、(一財)ラボ国際交流センター理事。慶應義塾大学名誉教授、関西大学客員教授。専門分野は言語の認知科学（第一言語獲得、統語解析、ことばへの気づき）。

東京言語研究所（以下、「研究所」）の初代運営委員長であった服部四郎先生は、基礎科学としての理論言語学の重要性を広く世に浸透させるために、理論言語学を志す人々に門戸を開放しようという考えから研究所の開設を思い至ったのですが、同時に、言語教育は理論言語学の研究成果に根差したものであるべきだという信念をおもちでした。

研究所の第3代運営委員長に就いた私は服部先生のご遺志をいかすべく、2009年に「教師のためのことばワークショップ」を企画いたしました。教員養成課程や教員研修制度などでは十分に身につけることができない理論言語学の考え方や研究成果を教員の方々にていねいに提示し、その活用方法を講師と受講者がいっしょに検討しようというのがその趣旨です。「ことばへの気づき（metalinguistic awareness）」の概念を基盤とし、毎回、内容に変化をもたせ、2019年度まで8回にわたり開催されました。

「ワークショップ」は毎回好評であったのですが受講

者の側での蓄積があまりなされず、単発の「楽しいイベント」で終わってしまうくらいがありましたので、2021年度からは装いも新たに講義と質疑応答からなる「教師のためのことばセミナー」として再出発することにしました。「セミナー」では可能な限り若手や中堅の講師を起用することを心がけました。

2025年度で第5回目となる「セミナー」ですが、今回をもってその幕を閉じることといたしました。次期学習指導要領の改訂にむけた作業が進行中の現在、言語教育の在り方を考えるためには理論言語学だけでなく、認知科学、教育学、異文化コミュニケーション学、社会学、哲学など、より広い視点からの検討が必要であるとの思いを強くしたからです。

現在、そんな考えを実現させるためにふさわしい形態と場をいろいろと検討中です。結論が出ましたらあらためてみなさんにお知らせいたします。

これまで「教師のためのことばワークショップ／セミナー」へ賜ったご支援に深く感謝いたします。

## 募集案内

### ■春期講座

理論言語学の主要な研究領域を2日間で広く学ぶことができます。

日程：4月11日～12日

講師：池上嘉彦（東京大学名誉教授）ほか15名

### ■理論言語学講座オンラインガイダンス

前期担当講師が各講座について説明します。

日程：4月18日

### ■理論言語学講座

言語学の広い領域について、今年度は入門から上級まで22課目を開講予定です。

日程：5月11日～12月21日

（前期・後期 各10回）

※8月、10月に集中講座あり

※詳細については東京言語研究所ウェブサイトに掲載します。

<https://www.tokyo-gengo.gr.jp/>

## 文化をつなぐ道を歩む

杉山絵里香

国立研究開発法人 職員



ラボ国際交流では、中学生の私にとって、身体性をともない他言語を受け入れ、さらにことばを超えて、人と人が向き合う感覚が芽生えたように思います。また、私が日本人であることを静かに認識する始まりでもありました。



小さな頃から、先輩たちや姉のホームステイの話聞き、家族で海外からの留学生を迎えていましたが、アメリカ・オハイオ州に到着したときは、日本で育った私の感覚とは異なる文化に圧倒されました。アメリカ人と牛しかいない広大な森のなか、小高い丘や見えるところすべてが家族のものという、新しいスケールの世界に立ちすくみました。



日本から準備してきたアルバムと祖母や母が作ってくれた貝の根付を手に、小さな教会で開かれたホストの友人たちとのパーティでは、私の拙いことばでも握手やハグで喜んでくれることが伝わり、お礼にと、青やピンクの甘いジュースとポップコーンで歓迎を受けたことを思い出します。

その後、ラボ活動で出会ったシェイクスピアの『夏の夜の夢』をきっかけに決めたイギリス留学で、ドイツ、フランス、イタリア、スリランカ、韓国——異なる文化圏から来た友人たちと思考を交わし、芸術と植物を専攻するなか、彼らから自然や環境との向き合い方に新しい視点を学びました。また、日本特有の「陰翳礼讃」の洗練された世界観にしたいに誇りをもつようになりました。

帰国後、自然やデザインにまつわる仕事を経験したのち、現在は日本の宇宙探査を推進する部門にて、自然と呼応する科学技術を社会につなぐ広報を担当しています。2024年には、世界で5番目となる日本の月着陸成功の広報活動に携わり、イタリア・ミラノでの国際学会では広報発表をおこないました。さらに、大阪・

関西万博ではスイスの大学とのイベント共催、勤務地でのイギリスやオーストラリアからの視察対応、アメリカのメディアとの対話などをとおして、各地にいる友人や旅した景色が思考の背景に立ち上がりました。いまもさまざまな文化が共存する環境で仕事を推進することへの興味は尽きません。

現在、各国が協力し人類は再び月をめざして活動しています。人と自然との関係を見つめなおし、月に文化を築こうとする営みへの関心が尽きないのはこれまでの原体験があったからかもしれません。

読者の皆さんのまだ見ぬ世界へ立ち立つ勇気を尊敬し、その挑戦を応援しています。世界との距離を少し縮め、自分の可能性を試す一歩は、想像以上に長くご自身を支えてくれるはずです。



すぎやま えりか=国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 宇宙探査イノベーションハブ 主査 (東京都・高橋義子パーティ OG)

## Information

### <一般財団法人ラボ国際交流センター>

#### ◆理事会・評議員会

- 予算理事会 : 3月5日
- 予算評議員会 : 3月19日
- 決算理事会 : 5月21日
- 決算評議員会 : 6月10日

#### ◆海外への訪問プログラム

- ラボ中国青少年交流  
日程: 3月25日~4月3日

- 第29期ラボ高校留学全国事前合宿  
日程: 5月3日~5日

会場: 国立オリンピック記念青少年総合センター

- 全国国際交流引率者合同会議  
日程: 5月16日~17日  
会場: 国立オリンピック記念青少年総合センター

### <東京言語研究所>

- 春期講座  
日程: 4月11日~12日  
講師: 池上嘉彦 (東京大学名誉教授) ほか15名

○理論言語学講座前期オンラインガイダンス

- 日程: 4月18日
- ミニ講義講師: 杉岡洋子 (慶應義塾大学名誉教授)

○理論言語学講座 (22課目)

- 日程: 5月11日~12月21日 (前期・後期各10回、8月と10月に集中講座あり)

※詳細については東京言語研究所ウェブサイトに掲載します。

<https://www.tokyo-gengo.gr.jp/>